

令和元年10月29日

芦屋市議会議長 中島 健一 様

民生文教常任委員長 帰山 和也

民生文教常任委員会 行政視察報告書

本委員会は、下記のとおり行政視察を実施しましたので、報告します。

記

- 1 日 程 令和元年10月24日（木）～10月25日（金）
- 2 視察先及び
視察項目 子ども総合相談センターについて（北海道旭川市）
生活困窮者自立相談支援事業について（北海道小樽市）
- 3 参加者 委員長 帰山 和也
副委員長 米田 哲也
委員 福井 利道、大塚のぶお、大原 裕貴、
中村 亮介、川島あゆみ
随 行 亀岡 学
- 4 視察報告書 別紙のとおり

以 上

令和元年度 民生文教常任委員会 行政視察報告書

視 察 日 時	令和元年10月24日(木) 14時00分 ~ 16時00分
視 察 先	北海道旭川市 子ども総合相談センター
視 察 内 容	子ども総合相談センターについて
視 察 目 的 (視察先選定理由)	芦屋市においても、子どもたちに関する相談は多岐にわたり、増加している。 また、建設中の市立認定こども園においても相談施設の開設が見込まれている。 以上から、相談体制や内容について先進市の状況を学ぶため。
調 査 概 要	<p>説明員：子ども総合相談センター 村椿所長、山本主幹</p> <p>1 施設見学 建物1階、2階の施設を実地に見学し、その設置目的や機能について説明を受けた。</p> <p>2 当該相談センター設置に至る背景や具体的な実施事業についての説明 子育てに不安を持つ保護者の増加、特別に支援が必要な子どもの増加、児童虐待に関する相談の増加、相談内容の多様化・複雑化、家庭と地域との関係の希薄化などにより総合的な窓口の集約化が必要となり、発達支援相談、家庭児童相談を統合し、平成28年4月に開設。</p> <p>旧旭川市立常盤中学校の校舎を改修して、4億7,900万円で建設。 相談対象年齢は、概ね18歳までであるが、一部妊婦等の相談も受けている。 窓口集約化のメリットは、どこに相談すべきかがわかりやすい、関係機関との連携が図りやすい。 デメリットは、他に相談窓口がないため、被相談者との関係が悪化すると相談が途切れがちになる。 様々な相談窓口や支援制度を集約したため、担当職員には、多様な知識や高い専門性が求められる。</p> <p>職員は、正規9名、嘱託24名、臨時1名の計34名。 所長、事務職計4名以外の30名は、保育士、教員免許、保健師、社会福祉士、作業療法士、心理士などの資格を有している。 来所しての支援や相談のみならず、アウトリーチに積極的に取り組んでいる。</p>
所 感 (意見・感想・今後の課題等)	<p>市の教育委員会、福祉部局の垣根を超えた総合相談窓口となっており、この点は相談者の立場に立った対応が期待される。また、様々な相談に電話で心理士が対応する「子どもホットライン」の利用は伸び悩んでいるようなので、今後の活用が期待される。</p> <p>本市においても、訪問型の産後ケア事業など、先進的な事業について、実施を検討すべきでは。</p>

令和元年度 民生文教常任委員会 行政視察報告書

視 察 日 時	令和元年10月25日（金）10時00分 ～ 12時00分
視 察 先	北海道小樽市
視 察 内 容	生活困窮者自立相談支援事業について
視 察 目 的 (視察先選定理由)	芦屋市ではいまだに実施できていない任意の支援事業の状況等や、先進の取り組み状況を学ぶため。
調 査 概 要	<p>説明員：生活サポートセンター「たるさぼ」 柴田所長</p> <p>1. センターの体制は、直営＋委託であるが、同じ事業所内に、小樽市福祉部の職員、社会福祉協議会の職員、民間の人材派遣会社の社員が机を並べて支援事業を行っており、全国的にも珍しい。就労支援と、就労準備支援を行う事業者については、公募型のプロポーザル方式により選定している。</p> <p><当該方式のメリット></p> <p>市の直営による庁内の連携の円滑化、社協の地域でのネットワーク、キャリアバンク株式会社の法人として就労支援に取り組んできた実績、それぞれの強みを持ち寄ることで、幅広い相談に対応でき、同一事業所内で業務を行っていることから情報伝達がスムーズにできる。</p> <p><当該方式のデメリット></p> <p>本人に寄り添った支援になっていないなど、所属組織の違いによる業務に対する意識の違いが生じる。民間事業者において、人事異動が1年余りで行われる場合がある。相談支援と就労支援は一体的に実施されるほうが望ましい。</p> <p>2. 事業費の内訳（令和元年度予算 一部概要）</p> <p>生活困窮者自立支援事業 17,600 千円</p> <p>3. 家計改善支援事業</p> <p>本年度4月から実施事例は2件のみ。直接金銭管理や通帳管理するわけではないため、本人の意識づけが重要。長期間の支援が必要となる可能性が高い。</p>
所 感 (意見・感想・今後の課題等)	小樽市の特徴として、物資支援事業の中で、ガソリンや灯油、衣料品などが支援されている。一方、小樽市では、20代から70代までの幅広い年代にわたって就労支援に対するニーズが存在するとともに、シニア世代の求職者数が増加傾向にある。芦屋市でもこのような傾向が進む可能性があり、長く働くための職場定着支援も重要になると推測される。

視察の様子（令和元年度 民生文教常任委員会）

視 察 先 ①

10月24日
北海道旭川市
(子ども総合相談センター)



旭川市子ども総合相談センターを訪問しました。



同センターの村椿所長はじめ職員の方々に施設をご案内いただきました。(写真は施設2階の地域活動支援スペース)

視 察 先 ②

10月25日
北海道小樽市



小樽市役所を訪問しました。



小樽市福祉部生活サポートセンター「たるさぽ」の柴田所長にご説明いただきました。

※この「視察の様子」のページは市議会事務局職員が作成しています。